

はじめに

千葉県では、今後総人口が減少する一方で65歳以上の高齢者が増加し、平成37年（2025年）には、3.3人に1人が高齢者となり、そのうちの約6割は後期高齢者となる見込みです。



このような超高齢社会を活力あるものとするためには、豊富な知識や経験を持つ高齢者の方々の社会参加等を通じた活躍が欠かせません。

また、医療・介護サービスや地域における一人暮らし高齢者の見守り等の生活支援サービスへのニーズの増加に対応するため、いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる地域づくり、いわゆる「地域包括ケアシステム」の構築が必要です。

こうした状況を踏まえ、県では、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる平成37年（2025年）を見据え、今後の3年間で取り組む高齢者施策をまとめた「千葉県高齢者保健福祉計画（平成30年度～平成32年度）」を策定しました。

本計画では、これまでの計画を踏まえつつ、引き続き「高齢者が個性豊かに生き生きと、安心して暮らし続けられる地域社会の実現」を基本理念とし、その実現に向けて、市町村や専門職の方だけでなく、地域の様々な団体とも連携を図りながら、「オール千葉」で取り組むこととしております。

最後に、本計画の策定に当たり多大なる御協力をいただいた「千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会」の委員の皆様をはじめ、貴重な御意見・御提案をいただいた県民の皆様、市町村・関係団体の皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

千葉県知事 森田 健作